

講義名	対1)教養特講 (日本経済の課題)			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

日本の経済はバブル経済の崩壊後、ずっと低迷したままで、しかも世界的なコロナ問題にも直面し、どこに向かってゆくのかますます不透明となっています。そのような中、流通経済大学に入学された皆さんは、将来のビジネスパーソンとして、日本や世界の経済、経営について勉強することになります。この講義は、後期に開講される経済学入門への橋渡しとしての講義であり、高校で学んだ現代社会や政治経済を土台にして、経済学の基本的な考え方、分析道具を勉強します。そして最近、ニュースや新聞で報じられている様々な日本経済の課題について勉強、グループディスカッションなどをしてゆきます。

到達目標

- (1) 高校で学んだ現代社会、政治経済の経済分野の考え方を、現実の経済問題に適用できるようになる
- (2) 現在の日本の経済問題とその解決方法を、考えることができるようになる
- (3) 現在の日本の経済問題とその解決方法を、受講者同士で話し合っ、発表できるようになる
- (4) 新聞やニュースで報じられる日本の経済問題を理解できるようになる

提出課題

RYUKA Portalあるいはresponを通じて、毎回の講義での気づき、感想、質問を提出してもらいます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

受講者全員で共有したらよい質問や感想などを、講義内で紹介します。

評価の基準

毎回の講義で提出してもらう気づき、感想、質問 (15%)
 ディスカッションへの参加度合 (25%)
 期末レポート課題 (60%)

履修にあたっての注意・助言他

できるだけニュースを見る、新聞を読む癖をつけ、日本経済の最近の動きに興味をもってください。そして同じ教室で講義を受けている他の受講生とも、いい機会ですので知り合いになり、ディスカッションなどで協力しましょう。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.マンキュー入門経済学 第3版.	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315217
.ネットニュースではわからない本当の日本経済入門.	伊藤元重	東洋経済新報社	9784492396629
.日本経済入門 第2版.	日経ビジネス	日経BP	9784296105107

その他

毎回の講義で扱う講義スライドはRYUKA Portalで送信します。予習、講義、復習で講義スライドが必要となりますので、受講生の皆さんは講義ノート、講義スライドを必ずダウンロードするなどしてください。対面講義では、複数回、教員が与えた課題、話題について受講者同士でディスカッションし、その内容を発表してもらいます。

授業計画

- 1 なぜ経済学を勉強するのか?
- 2 経済学の考え方に慣れよう
- 3 経済学で使うグラフ、計算に慣れよう
- 4 需要と供給
- 5 1回から4回の講義の復習
- 6 コロナ後の日本経済 その行方 ディスカッション
- 7 コロナ後の日本経済 その行方 ディスカッション
- 8 年金 何が問題?
- 9 年金 何が問題? ディスカッション
- 10 これからの消費税 どのように向き合うべき? ディスカッション
- 11 これからの消費税 どのように向き合うべき? ディスカッション
- 12 日本の所得格差問題 ディスカッション
- 13 日本の所得格差問題 ディスカッション
- 14 新聞に目を向けてみよう 日本経済新聞の記事から
- 15 新聞に目を向けてみよう 日本経済新聞の記事から (経済教室にチャレンジ)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

RYUKA Portalから送信される講義スライドを予習、必要に応じて参考書の内容確認(2時間程度)
 講義で利用した講義スライド(RYUKA Portalで送信されたもの)で講義内容を復習、必要に応じて参考書を読む(2時間程度)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義は、流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、特に「知識を応用して転換することができる、論理的思考力を持った人材」との結びつきが強いです。講義で扱うさまざまなトピックを通じて、特に「課題や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき問題を設定することができる(課題発見力)」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)」を養うことを目標としています。なお受講者同士でのディスカッション・発表も予定しています。これを通じて、「仲間と協働して、物事を成し遂げることができる人材」となってもらうことも念頭に置いています。最後に講義で学んだトピック、考え方を活用して、各種新聞の記事内容を深く理解することも目標とします。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responを利用する場合は、事前にrespon利用について案内をします。

実務経験の有無及び活用

該当なし

備考

特になし